

自然観察NOW

野幌森林公园自然情報

2005.3.6 No.11

北海道ボランティア・センター協議会

バードウォッチング事始め

季節を問わず森の中を歩いていると不思議と心が洗われるような気分になります。五感を働かせじっとしていると、森のなかから色々な音が聞こえてきます。風の音、木のする音、そして野鳥の鳴き声も聞こえてきます。「何という鳥だろう?」という好奇心が自然の世界を広げていきます。このような疑問や探求心が自然観察ですし、発展して野鳥そのものに興味を持つことがバードウォッチングの始まりです。

日本のバードウォッチングの起源は、1934(昭和9年)年、創立間もない日本野鳥の会が富士山麓で開催した「富士裾野鳥巣見学会」が始まりと言われていますが、現在は各地で野鳥の会やクラブ、同好会などが野鳥観察会を実施しているのはご存じの通りです。

春が近付くと森の野鳥たちも冬鳥から夏鳥へと交替するのと同時に地味な鳴き声(地鳴き)からさえずりに変わっていきます。バードウォッチングの絶好の季節が訪れます。野鳥の姿を求め森へでかけましょう。そのため最低必要なものを準備すると、より野鳥に興味関心が増します。

双眼鏡も必要でしょう。また、野鳥図鑑があれば観察した野鳥を確認できます。ハンディタイプの気軽に持ち運びできるものを用意してみてはいかがでしょう。

バードウォッチング、見方を変えるとそれは野鳥も私たちをみているということです。私たちが10m離れた場所から野鳥をみていると、野鳥は人という巨大な壁を眼前にしているということです。バードウォッチングは、どこかで野鳥たちにストレスを与えていたとも言えますので、野鳥の立場に立った観察の配慮が求められることは言うまでもありません。

ヒマワリ大王

ふれあい交流館で設置してある屋外の餌台を観察していると、野鳥たちの力関係が見てとれ、興味深い光景を目にすることができます。例えば、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ等が餌台でヒマワリの種を啄んでいるところへ、シメが割り込み、追い払い餌台を独り占めにします。この様子を人呼んで「ヒマワリ大王」といい、悪役を一手に引き受けている感があります。

シメはアトリ科で雄と雌ほとんど同じ色ですが、顔の部分の模様のためかこわい雰囲気を漂わせています。太い嘴と短い尾でぐんぐりした体型をしています。また太い嘴は、種の殻や硬い木の実をわるのに都合よくできています。30kgほどのプレスをかけることができるといわれています。

冬の間は一定の区域内で1羽で生活するものが多く、春が近付くと2羽、3羽と徐々に数が増え小群になっていきます。

餌台から飛び立つようすもよく観察してみましょう。飛び方は大きな波形を描いて飛んでいきます。



樹液

3月に入ると雪の多かった今年の冬もあとわずか、雪解けの待ち遠しい頃となりました。森の木の冬芽も膨らんできているのを確認できます。また、カバノキ科のシラカンバやカエデ科のイタヤカエデなどの枝や幹などから樹液が滲みでているのを目にすることがあります。シラカンバの樹液は雪解け時に採取され商品化されていますし、イタヤカエデの樹液を野鳥やエゾリスが舐めにきたりすると、春がすぐそこを感じがしてきます。

このように木の樹幹内の圧によって樹液が押し出されることを「溢出樹液」といいます。樹液の主たる成分は水ですが、この水は根が吸い上げたものです。これがどのように幹や枝に上昇していくのでしょうか。それは水の凝集力（水分子が互いに引き合い、離れまいとする力）が働いているからだといわれます。もうすこし詳しく言うと、水それ自身の中に働く「凝集力」と水が通る管の細胞壁との間に働く「粘着力」によって上昇していきます。しかし、葉のない期間については葉の蒸散作用がありませんので、根の浸透圧や幹の浸透圧変化が補助ポンプの働きをすると考えられています。

かつて、シラカンバの樹液を使って「シラカバ酒」を作っていたとの記述を見つけました。シラカンバの樹液を発酵させて作った酒は、趣のある味で、まわりもよいが、1時間もすればサットさめる酒だそうです。シラカンバ酒を作つてみたい衝動にかられます。だれかこの酒の作り方を知っている方はいませんか。

—シラカバ酒については、北方植物園（朝日新聞社）参考—

雪解けの観察

雪解けが始まる頃になると森の中の樹木の根の周りが早く解け、すり鉢状の穴ができはじめます。この穴ができ始めると一気に森の雪が解け始めます。このような樹木の周りに穴が開く現象を「根開き」といいます。

では、なぜ根開きという現象が起きるのでしょう。その主な原因是直射日光を受けて暖まった樹木の幹からの放熱と日射を受けた樹木からの反射光です。実験結果では放熱の効果のほうが大きいとのことです。

地熱が樹木に伝わって雪を解かすとの説明がされていますが、地熱の効果はまったくないことは実測で証明されているとのことです。

日照時間も長くなり陽射も強くなると、根開きもどんどん進んできます。根開きのようすをじっくりと観察するのもおもしろいものです。



4月の観察会は？

17年度最初の観察会です。雪の季節がおわり花の季節が始まります。ミズバショウやフクジュソウが咲いていることでしょう。

「春の花を見つけよう」観察会 4月28日(木) 10:15~12:30

集合場所 野幌森林公園開拓記念館前（解散 ふれあい交流館）